

農泊推進型の実施にあたっては、協議会の中核法人が地域の「宿泊」、「体験」、「飲食」を行う構成員を一体的にコントロールすることが前提条件であり、交付金実施に伴い増加する「宿泊」、「体験」、「飲食」を一体的に整理することが必要（連携団体の算定は不要）です。なお、本様式は提案書（別添2の別紙1）の「収支見通し」から整理願います。

【地域協議会の収支】（総括表）

〇〇県〇〇市 事業実施主体：〇〇〇〇（〇〇〇〇地域協議会）

〇地域協議会の構成員

- 提案書に記載されている主な構成員名を記載する。なお、構成員名の後に（ ）書きでその構成員の役割を記載し、中核法人はアンダーラインで示すこと。
例）〇〇〇株式会社（フロント、宿泊）、〇〇〇〇（食事、体験）、地元農家（体験、食材提供※地元農家・漁家による食材提供は必須）
- 提案書に記載されている団体であっても、収支に関連の薄い団体（フロント、宿泊、食事、体験以外の役割の団体）の記載は不要。

農山漁村振興交付金（農泊推進型）収支計画

（千円）

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	
宿泊	0	0	10,920	32,850	R9.10月から供用開始
宿泊者数	0	0	728	2,190	
宿泊単価	0	0	15	15	1泊2食付き（1泊朝食付き、素泊まり 等）
体験プログラム①	300	360	1,080	1,500	〇〇体験
参加者数	100	120	360	500	
単価	3	3	3	3	
体験プログラム②	160	240	720	1,000	△△体験
参加者数	80	120	360	500	
単価	2	2	2	2	
体験プログラム③	250	400	900	2,400	××体験
参加者数	50	80	180	480	
単価	5	5	5	5	
飲食施設	0	0	3,960	10,560	R9.10月から供用開始 立ち寄り客に昼食を提供（@2,000円）
客数	0	0	1,980	5,280	
単価	0	0	2	2	
売上	710	1,000	17,580	48,310	

【宿泊について】

- 交付金実施に伴い増加する宿泊者数（目標値）を各年度ごとに記載する。
- 宿泊施設の整備を行う場合は施設供用開始予定年月を備考欄に記載する。
- 宿泊単価について、1泊2食付き等の場合は食事付きの単価を記載し、備考欄にその旨記載する。
- 部屋のタイプやシーズンで宿泊代金は大きく変動するが、平均単価で整理する。

【体験について】

- 提供する体験プログラムは3プログラム以内に集約し、各体験プログラムごとに収支を作成する。
- なお、体験プログラム名及び内容は“桃収穫体験”“稲刈り体験”等具体的に本表下部に記載する。
- 各体験参加者数は、交付金実施に伴い増加する人数を各体験ごとに年度ごとに記載する。
- 体験施設等を整備する場合にあっては、その施設を活用する体験プログラムの備考欄に施設供用開始予定年月を記載する。

【飲食について】

- 客数は交付金実施に伴い増加する人数（客数：目標値）を年度ごとに記入する。
- 飲食施設については、宿泊客又は立ち寄り客に対し朝食夕食のいずれを提供するのか、また、各単価を備考欄に記載する（宿泊者のみに朝夕食等を提供し、代金が宿泊単価に含まれている場合は記載不要）。
- 飲食施設を整備する場合にあっては、備考欄に施設供用開始予定年月を記載する。

経費	0	0	0	0		
人件費	0	0	0	0		【人件費について】 ・人件費の記載が必要となる場合は、中核法人が自ら宿泊施設、飲食施設の運営、体験プログラムの実施を行う場合であり、委託により実施する場合は計上されない。 ・人件費の算出にあたっては、別紙2において、その根拠を明確にすること。
・宿泊費分 (単位:人)						
・体験費分① (単位:人)						【販管費等について】 ・販管費等は、以下に示す値が標準とされており、標準値を用いない場合はその根拠を備考欄に記載すること。 販管費(飲食を含まない場合):30% 販管費(飲食を含む場合):35% 委託費:90%
・飲食施設分 (単位:人)						
販管費等	0	0	0	0		
・宿泊費分					パターン1)水光熱費,消耗品費,備品購入費,広告費,食材費 宿泊売上の○% パターン2)委託費(旅館○○) 宿泊売上の○%	
・体験費分①					委託費(××××) 体験売上の○%	・販管費等には、中核となる法人が自ら宿泊施設、飲食施設の運営、体験プログラムの実施を行う場合にパターン1のとおり備考に記載することとする。 ・中核法人以外の構成員が宿泊、体験、飲食を実施する場合においてはパターン2のとおり委託費と記載し、()に委託先を記載する。
・体験費分②					委託費(××××) 体験売上の○%	
・体験費分③					販管費 体験売上の○%	
・飲食施設分					※「宿泊費分」の記載に準じる	
補助金自己負担分					借入の返済(○○年償還)、○○町過疎債(○○年償還) 等	
賃料					令和○○年○月○日から	賃料欄は、施設整備事業において貸借物件を整備する場合の賃料を記載する。
火災保険料						
経常利益	710	1,000	17,580	48,310		事業開始から3年目(R10年度)迄に黒字を達成させる計画とすること。

【体験メニューの具体的内容】

- ①○○体験(実施主体 ○○○振興公社)
○○○振興公社及び地元農家の方々にガイド及び受け入れ先として協力いただき、果樹畑での収穫(柑橘類:ゆず等、スモモ)、地元農家や地元の方々との交流を楽しんでいただく。
- ②△△体験(実施主体 △△)
~~~~~
- ③××体験(実施主体 ××)  
~~~~~

〇〇県〇〇市 事業実施主体:〇〇〇〇(〇〇〇〇地域協議会)

【記載例】市町村・中核法人実施型の場合

項目	年度	数量	単位	数量決定根拠
宿泊	R7	0	人	
	R8	0	人	R9. 10月から供用開始
	R9	728	人	宿泊施設は5室(1室4名利用)で、稼働率については観光庁観光統計宿泊旅行統計調査の都道府県別宿泊施設タイプ別客室稼働率(令和4年確定値)より、〇〇県の旅館稼働率30.0%を参考に、初年度は施設の周知や普及に時間を要することから10%減の20%を目標とする。 4名×5室×182日(10月供用開始)×20.0%=728人(※人数は整数で整理することとし、小数点以下は切り捨てとする)
	R10	2,190	人	宿泊施設は5室(1室4名利用)で、稼働率については観光庁観光統計宿泊旅行統計調査の都道府県別宿泊施設タイプ別客室稼働率(令和4年確定値)より、〇〇県の旅館稼働率30.0%をもとに、稼働率30.0%を目標とする。 4名×5室×365日×30.0%=2,190人(※人数は整数で整理することとし、小数点以下は切り捨てとする)
体験① (〇〇収穫体験)	R7	100	人	体験は6月～10月に実施、R7の数値は実績値
	R8	120	人	月4回、3ヶ月、1回あたり10名(R8は8～10月に実施)
	R9	360	人	月6回、6ヶ月、1回あたり10名
	R10	500	人	月10回、5ヶ月、1回あたり10名
体験② (〇〇加工体験)	R7	80	人	体験は通年実施、R7の数値は実績値
	R8	120	人	月4回、3ヶ月、1回あたり10名(R8年度は10～3月に実施)
	R9	480	人	月6回、8ヶ月、1回あたり10名(R8年度は8～3月に実施)
	R10	720	人	月6回、12ヶ月、1回あたり10名
体験③ (〇〇自然体験)	R7	50	人	体験は4月～11月に実施、R7の数値は実績値
	R8	80	人	月4回、2ヶ月、1回あたり10名(R8年度は10～11月に実施)
	R8	180	人	月6回、3ヶ月、1回あたり10名(R8年度は9～11月に実施)
	R9	480	人	月8回、6ヶ月、1回あたり10名
飲食施設 客数(宿泊客)	R7	0	人	宿泊客に対する朝夕食の提供
	R8	0	人	宿泊客と同数
	R9	728	人	宿泊客と同数
	R10	2,190	人	宿泊客と同数
飲食施設 客数(立ち寄り客)	R7	0	人	立ち寄り客に対する昼食の提供 (← 誰に何を提供するのかを明記すること)
	R8	0	人	R9. 10月から供用開始
	R9	1,980	人	客席数20席×客席稼働率50%×回転数1.5回×132日
	R10	5,280	人	客席数20席×客席稼働率50%×回転数2回×264日

- ・宿泊施設の稼働率は、「観光庁観光統計宿泊旅行統計調査(最新の公表値)」における所在都道府県のうち、設置する施設のタイプ(旅館・リゾートホテル・簡易宿所等)の稼働率を参考とし、必要に応じて地域の特質を考慮し整理すること。なお、稼働率の算定に当たり、統計調査の稼働率を用いない場合は、その根拠を備考欄に記載すること。
- ・体験参加者数については、宿泊者数と関連に留意すること(農泊は宿泊、体験、飲食を一体的に提供するものであるため)。
- ・飲食施設の客数(立ち寄り客)については、定休日を考慮するとともに、客席稼働率は50～70%が標準であることを考慮して設定すること。

〇〇県〇〇市 事業実施主体:〇〇〇〇(〇〇〇〇地域協議会)

【記載例】市町村・中核法人実施型の場合

項目	年度	勤務形態	単位	数量(A)	年間単価(B)	計(A×B)	単価の決定根拠
宿泊	R7	常勤職員	人				月〇〇円×〇ヶ月=〇〇〇円
		非常勤職員					〇〇円/時間×〇時間×〇日×〇ヶ月=〇〇〇〇円
	R8	常勤職員	人				
		非常勤職員					
	R9	常勤職員	人				
		非常勤職員					
	R10	常勤職員	人				
		非常勤職員					
体験	R7	常勤職員	人				
		非常勤職員					
	R8	常勤職員	人				
		非常勤職員					
	R9	常勤職員	人				
		非常勤職員					
	R10	常勤職員	人				
		非常勤職員					
飲食施設	R7	常勤職員					本様式は、施設整備に伴い新たに雇用する常勤職員や非常勤職員の状況を踏まえて整理する。 例えば宿泊施設で新たに雇用される従業員が体験メニューのインストラクターを担う場合は、宿泊と体験で人件費を分けて整理することが望ましいが、給料制で費用の振り分けが難しい場合は、メイン(宿泊)の業務に一括計上するとともに、体験欄の単価の決定根拠欄にその旨を整理すること。 作成にあたっては、「売上の〇%」のような定性的な積算を行わないこと。 なお、非常勤職員の時間当たり賃金の決定にあたっては、地域別最低賃金を確認すること。
	R8	常勤職員					
	R9	常勤職員					
	R10	常勤職員					
	R10	非常勤職員	人				

【記載例】市町村・中核法人実施型の場合

〇〇県〇〇市 事業実施主体:〇〇〇〇(〇〇〇〇地域協議会)

項目		販管費(千円)				備考
		R7	R8	R9	R10	
宿泊	水光熱費					網掛け部分は、標準値を用いない場合等に必要に応じて記載
	消耗品費					
	備品購入費					
	広告費					
	食材費※1					
	合計					販管費 宿泊売上の〇〇% (← 標準値を用いる場合は「合計」欄に一括計上で可)
体験	体験①委託費					委託費 体験①売上の〇〇%
	体験②委託費					委託費 体験②売上の〇〇%
	体験③販管費					販管費 体験③売上の〇〇%
	合計					
飲食施設	水光熱費					網掛け部分は、標準値を用いない場合等に必要に応じて記載
	消耗品費					
	備品購入費					
	広告費					
	食材費					
	合計					販管費 飲食売上の〇〇% (← 標準値を用いる場合は「合計」欄に一括計上で可)

※1 宿泊に係る食材費については宿泊施設にて「食」を提供する場合に計上する。

【販管費等について】

・販管費等は、以下に示す値が標準とされており、標準値を用いない場合はその根拠を備考欄に記載すること。

販管費(飲食を含まない場合):30%程度

販管費(飲食を含む場合):35%程度

委託費:90%程度